

## 第 20 回日本ジオパーク委員会議事録

日付： 2014 年 4 月 30 日 (水)

場所： パシフィコ横浜・会議センターメインホール

時間：

公開プレゼンテーション

11:00～17:00

委員会審議

17:05～18:30

出席者

委員長

尾池和夫 京都造形芸術大学 学長

副委員長

中田節也 日本火山学会 (東京大学地震研究所 教授)

委員(五十音順)

阿部宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事

大野希一 日本火山学会 (島原半島ジオパーク)

菊地俊夫 日本地理学会 (首都大学東京 教授)

斎藤清一 日本ジオパークネットワーク事務局長

高木秀雄 日本地質学会 (早稲田大学 教授)

佃 栄吉 産業技術総合研究所 地質調査総合センター代表

中川和之 日本地震学会 (時事通信社 山形支局長)

成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長

宮原育子 日本地理学会 (宮城大学事業構想学部教授)

目代邦康 日本第四紀学会 (公益財団法人自然保護助成基金主任研究員)

顧問

伊藤和明 防災情報機構特定非営利活動法人 会長

小泉武栄 東京学芸大学 特任教授

町田 洋 東京都立大学 名誉教授

事務局

利光誠一 産業技術総合研究所地質標本館 館長

下川浩一 産業技術総合研究所地質標本館 副館長

渡辺真人 産業技術総合研究所地質標本館

宮内 涉 産業技術総合研究所地質標本館

川辺禎久 産業技術総合研究所地質標本館

大谷 竜 産業技術総合研究所地質標本館

菅家亜希子 産業技術総合研究所地質標本館

## 公開プレゼンテーション

11:00 開始

(事務局) 日本ジオパーク委員会による審査についての概要説明。審査の仕組みと流れ、委員の紹介、審査の基準等について説明。最後に、各地域の発表時間と委員による質疑応答について周知。

[伊豆半島 GP] 事務局による GGN 加盟申請の趣旨説明の後、伊東市長の決意表明があった。

(委員) 充実した活動がなされているという印象。申請書のジオツアーのリストで従来の観光活動が上げられているが、どこがジオなのか？個々の売りは何か？伊豆は一つという意識は重要であるが、そのための方策は？

→ガイドと旅行代理店が協力して、歴史遺産見学やカヌー（シーカヤック）体験等を企画した。年間 3 千万人の観光客の中での保全と防災対策について静岡県と協力して推進している。ジオサイトの中には危険なところもあるので防災面を連携させる必要がある。現場を見て保全と防災を両立しながら対策を考えていきたい。

(委員) 地域間連携はどうか？

→15 市町村による消防等の年会を通じて協力を訴えてきた。このままではだめになると思いい、伊豆半島は一つになっていこうということで、ジオパークのおかげで意識改革もできてきた。横のつながりも活発化している。

(委員) 114 ジオサイトのつながりが見えないのをどうするのか？また、拠点施設としてのビジターセンターの活用や 2016 年にできる新施設との関係はどうか？さらに、周辺ジオパークとの連携はどのように行っているのか？

→つながりのわかる看板の整備を行っていく。ジオサイトだけに行った人には解説看板づくりで対応できるようにしたい。拠点施設には研究者や事務局員が常駐する。新施設は、各地からフィードバックする拠点として考えている。周辺ジオパークとの関係については、各ジオサイトから箱根などの周辺ジオパークが見えるので、その解説に活かしたり、ガイド同士の交流を考えている。

(委員) GGN はそこから世界へ伝えるものがあるが、伊豆半島としては何を伝えようとしているのか？

→島弧どうしの衝突系ジオパークである。プレートテクトニクス、火山多様性であり、海の火山が地表で見えるのは衝突系だからであることをアピールしたい。

(委員) GGN がいいモチベーションになるのはいいが、GGN に入ったからやれるというものでもない。今までにどういう実績があるのか？会議に出てしゃべっているだけではダメ。世界へのアピールの方法は？

→国際会議に出てアピールすることや国際対応の担当者を雇用したことなどで国際対応・

発信を進めていく。英語版ジオアプリを作成し、看板の二ヶ国語化を実施。

(委員) 地質だけでなく生物も入れるべき。イワナやイソギクの例で南から来たというストーリーを考えることもできる。

[アポイ岳 GP] 様似町長の挨拶の後、事務局より GGN 加盟申請の趣旨説明があった。

(委員) 絶滅危惧種の蝶を回復させた合意形成はたいへんよかった。道の事業と町の事業が、ジオパークだから合意形成できたということであればよいが、ジオパークとしての活動意識はどうか？

→ジオパークの取り組みとして、これまで停滞していた活動の取り組みが動き始めた。ジオパークというだけでなく、自然保護活動の一環というのが基本である。

(委員) GGN との関係について、カンラン岩地域との連携ということでオマーンとの交流の提案があった。イタリア北部にかんらん岩を含むジオパークがあり、アポイ岳と似ているので、そことの交流が必要である。また、GGN メンバーとの交流も必要。GGN ビューローを招いて確認したことは(評価してもらったことは?)？

→ない。これからコンタクトしたい。

(委員) 申請書では成長しているようだが、12 の指摘事項の中でどこまで改善が進んだのか？JGC からの指摘だけなのか？ほかに何か改善したか？自分たちで気づいたことを何かあったか？

→難しく考えているということが一番大きかった。指摘されて以降、意識改革を進めてまず楽しい感じでやっていけば良いと気付いた。ガイドともよく話して、専門用語だけでなく、もっとわかりやすくした方がよい。看板や HP を整備してきた。残りについてはこれから年次計画に沿って進めていきたい。やってきたことは指摘されたことへの対応だけではない。どうやったら喜んでもらえるのかの視点でがんばりたい。

(委員) 以前の視察でアポイ岳ファンクラブの方から難しいと聞いたが、今回は面白いという感想が聞きたい。難しい用語はかなり改善されてきた。

→様似町民の気質(引込み思案)で誤解を与えたのではないかと思う。今回はおそらく大丈夫である。専門用語がまだ目立つようであれば検討したい。

(委員) アポイ岳登山ツアーをいかに面白くするかが重要である。イタリアと違い、歩いて触れることができるのが売りとなる。現在も地震活動が活発で隆起していることと過去の地殻変動との関連を海岸地形で示してほしい。衝突のジオパークであり、海の説明もちゃんとしなくてはダメ。アイヌ文化についても、北海道の地名の中になぜこんなにアイヌの言葉が使われているのか、残っているのかをアピールすべき。

→これまでは高山植物と地質の関係の説明が主であった。アイヌの地名は地形由来が多いので、文化と自然のつながりをガイドの際にも活用したい。海についてはまだ理解が足りないので勉強したい。

(委員) アポイや様似の成り立ちについて語っていくのは難しいと思うが、訪問客のジオ

パークや町への感想やそれらのアンケート調査（何が一番面白かったか、どういうところがわからなかったか、一般の方の感じ方はどうか 等々）についてはどうか？

→大方の感想は、きれいだね、いいね、だけだった。なぜこのような地形になるかを伝えると、ただの観光ではなく理屈がわかってよかったという感想があった。アンケート調査はこれからの課題である。これまではモニター的に使っており、今後の糧としたい。

〔苗場山麓地域〕津南町長の挨拶の後、事務局より JGN 正会員加盟申請の趣旨説明があった。

（委員）1点目は推進体制、とくに県をまたいだ連携についてはどうか？2点目は他のジオパークで参考になった点とそうでない点について聞きたい。

→県をはさんでの交流はあったが、3年前の地震後に一体となった取組みを始めた。官民一体となってやってきた。他のジオパークについては、秩父ジオパークで客の要望に沿った対応を行っている点が、また糸魚川ではガイド養成が参考になった。住民それぞれがガイドになれるように努力していきたい。参考にならなかったところは、言えないが、ジオパークはどこですか、と問いかけて、わからないというところもあった。

（委員）5つのエリア全てに拠点施設があるのか？

→全てにあるわけではなく、これから整備していく予定。観光協会の施設はそれぞれにあるのでそこを拠点にと考えている。

（委員）エリアをつなぐ工夫は？

→全てのエリアをつなぐガイドツアーの整備を考えている。エリアで切ることは考えていない。

（委員）秋山郷の食文化を是非ガイドツアーに加えていただきたい。

（委員）ストーリーを考えてほしい。苗場山と段丘、巨大地すべり、雪などは全て関連しているので、うまくつなげてほしい。

（委員）「奥信越の川と火山」というテーマだが、川はもともとあったものではないので、キャッチフレーズに工夫がほしい。地震災害後の立ち上げということで、地震学会のジオパーク関連部会でも是非バックアップしていきたい。

（委員）災害に強い町づくりのためにどのような取組みを行っているのか？具体的に今後どういうことをしたいのか示して欲しい。

→津南町の旧6ヶ村のコミュニティーを再組織化のために活用するとともに、学びの場としても活用している。地域のなりたちを理解していきたい。

（委員）雪がもたらした恵みと災いにジオが関連しているので、そこからの発想やストーリーをもっと重視してほしい。ジオストーリーは文化の流れを通して進めて欲しい。また、突然の訪問者へのケアを大事にしてほしい。

（委員）地すべりで風穴ができていますが、どういう所にできるのかについて、ジオのつながりの検討をお願いしたい。

[天草地域] 天草市長の挨拶の後、事務局より JGN 正会員加盟申請の趣旨説明があった。当地域は天草御所浦ジオパークの拡大版となるものであるとのこと。

(委員) ストーリーが地質に偏りがちであり、島は昔からそこにあったわけではないが、そのところの説明も必要である。11 の物語はもう少し大きくりにできないか？御所浦の活動が広がることを御所浦の住民はどのように思っているのか？

→中生代の地層は横ずれ断層で南から来たといわれているが、はっきりしない。これから解き明かしていきたい。11 の物語は時代のくくりで4つの章に分けている。拡大する理由は、名前に天草がついているのに実質は御所浦のみで、他地域から不満があった。地元がいい競争が生まれて、御所浦も活気づいている。

(委員) 11 のうち9が地質で2が人間との係わり。後者が少ない気がする。また、ヘルスツーリズムとジオツーリズムとの関係はどうか？

→ストーリー11 が人間との関係である。ヘルスツーリズムにジオツーリズムが少し入っているが、ジオツーリズムそのものではない。ジオが広がりつつある。

(委員) 御所浦に比べてストーリーが弱い。もっとダイナミックな動きの中で説明するようにしてほしい。恐竜がいた場所というのがベースになっているので、その延長でストーリーをつなげていただきたい。

→最近、いろいろな場所で恐竜化石が発見されてきている。恐竜は売りにしたい。

(委員) ジオサイトの選定で基準をつくったのはよい。ジオサイトの基準作成の経緯は？  
→どう保存し利用できるかを考えて作成した。地主の方に了解いただいて決めている。

(委員) どうして多島海ができたのかについての説明がない。化石の話ばかりで、地形の説明があまりない。

→ストーリー10 で説明したつもりだが、確かに地形的なものは少ない。地形は褶曲構造のところで書いている。

(委員) 海面変動の一般的な説明ではなく、なぜ島として残ったのかということの説明が不足している。

→岩相による差別浸食が原因であると考えている。白岳砂岩（白いアルコーズ砂岩）の褶曲によるものである。

[下北半島地域] むつ市長の挨拶の後、事務局より JGN 正会員加盟申請の趣旨説明があった。

(委員) 1点目は地域資源の保全をどのように行っているのか、2点目は学術サポート体制について聞きたい（弘前大学との協力関係は？）。高校生にいきなり看板はむつかしいのでは？

→地域資源については大部分が国定公園のため青森県が管理している。植物の保全は地元住民のボランティア活動で行われている。天然記念物等、法律に関係するものはちゃんと

保全される。学術サポート体制については、弘前大学の協力で高校の課外授業の中で看板作成が行われている。地元の工業高校が電気自動車を作り上げた実績があり、大学の先生の協力を得ながらわかりやすい看板作成にも力を発揮していただいている。

(委員) メインテーマである「4つの海」は何のことか、それぞれがどうつながるのかわかりにくいことが残念。もう少し魅力あるテーマを考えてほしい。

(委員) 下北半島は広いが、もっと離れているところにもある。この中で、スポットガイド、マスターガイドは面白いが、このままずっとスポットガイドではよくないのでは？3種類のガイドの区分とその交流についてはどうなっているのか？

→スポットガイドは地元の方に地元のことを知っていただくためのもの。一つだけではつながらないので、ガイド員どうしの交流でテーマが広がるようにしていきたい。

(委員) 1点目は下北半島の名称についてで、申請範囲は下北半島北部になるのではないのか？半島の南側市町村との関係は？2点目は、この地域は地震も多く地すべり災害も見られるので、それについての言及が必要ではないのか？

→厳密には半島基部を含めた9市町村となるが、申請範囲は下北地域という呼称が青森県内では一般的で、下北半島という名称を使用した。災害については、今後充実させていきたい。ネオテクトニクスに関連したものも取り込んでいく。

(委員) ジオパークに認定された後の目標は何か？下北愛がないから育てたいということか？観光と教育以外のものを教えていただきたい。

→「むつ市のうまいは日本一」ということでスタートした活動で、さらに地質についての啓蒙活動と発信活動を行うための基礎としたい。地元で自信と発展をもたらしたい。

(委員) 他のジオパークで参考になったところは？逆に参考にならなかったところは？  
→糸魚川ジオパークが参考になり、目標にもなっている。とくにガイド活動が参考になった。ほかには、磐梯山等の東北地方のジオパークがある。参考にならなかったところはない。

[南紀熊野地域] 事務局より JGN 正会員加盟申請の趣旨説明があった。

(委員) 拠点施設はどうなっているのか？

→ジオパークに特化したものはなく、道の駅等を活用している。JR 駅に一つずつ作っていく。ジオステーション (情報発信)。博物館という意味での拠点はこれから検討していく。

(委員) 世界遺産センターとの関係は？

→相互連携に取り組んでいく。ガイドについてはジオパークのほうが進んでいる。

(委員) 2年前には県知事のトップダウンだったが、ボトムアップの現状は？

→地元市町村との話し合いで盛り上がりが見られるようになってきた。地域に浸透してきたと考えている。現在は地元住民の盛り上がりが大きく、行政は従となっている。

(顧問) 津波災害について。南海地震のモデルが古いのではないか？昭和南海地震がモデルになっていると思われるが、これは大阪等に被害のない小さなものであった。内閣府で

宝永地震規模の南海地震モデルがまとめられたので、参考にしてほしい。

(委員) 他のジオパークで参考になったものは？南海トラフだと、室戸などか？

→伊豆半島ジオパークで、広域での取組みとジオガイドの養成が参考になった。また、伊豆大島ではガイドテクニックを、山陰海岸では運営の仕方を学んだ。室戸ジオパークでは、ガイド等を学んだ。他のジオパークとのガイドのつながりで、県主導から地域主導へ地元が盛り上がるようになった。地域の宝探しをしていきたい。

(委員) 海を含めたストーリーを作ってほしい。とくに JAMSTEC のデータなど新知見を取り入れていただきたい。室戸ジオパークとの連携は？

→ジオステーションのパネルに海陸地形 3D モデルを追加する予定。室戸ジオパークとの連携については、室戸でのジオガイドの研修を企画し、ガイドテクニックを学びたい。

(委員) 新しい知見を取り入れるのによい機会であるので、連携をしてほしい。

→学術委員を通して連携をしていきたい。

(委員) ジオパークの境界と地域資源との関係は？

→地質の成り立ちをもとに境界を設定し、ジオサイトのみどころの多い地域 9 市町村ということで、協議会の中で今の範囲になった。

(委員) 産総研の調査で、橋杭岩が津波の時期や規模を推定する根拠になることがわかったが、そのような知見を取り入れるメカニズムは？学術分科会まかせでは不十分ではないか？

→できるだけ反映するようにしたい。産総研の宍倉氏には、新宮高校での防災スクールで講演いただいた。申請書の中では津波の学術研究として言及している。

[筑波山地域] つくば市長による挨拶の後、事務局より JGN 正会員加盟申請の趣旨説明があった。

(委員) 地下 10km の神秘と海拔 0m の神秘がいきなりポンポンと来ている。その間にある長い時間のプロセス (ダイナミズム) をどう語るかが重要である。また、当地域だけでは語れない部分をどう説明しているのか？

→ジオツアーの中では、陸水の出発点が筑波山で到達点が霞ヶ浦であると説明している。途中のプロセスをどう説明するかは今後の検討課題。

(委員) 以前呼ばれて話をしたときは、地元ではあまり関心がないようであった。今後、自治体主導で活動していくために、他ジオパークとの連携をどのように進めていくのか？

→他のジオパークについては、近くの茨城県北や秩父、隠岐などで勉強させていただいた。運営体制をどのようにするかは今後の課題である。

(委員) 筑波山地域という名称は一般に周知されているのか？

→筑波山地域ということで一つになれると考えている。

(委員) 石材採取地での産業振興と地域資源の保全、伝統産業の振興をどうするのか？

→地域によって保全するものは異なっているが、協議会の中で考えていくきっかけにした

い。

(委員) 説明が淡々としている。はんれい岩と花こう岩が同じところに出ているのはなぜか？もう少し面白い話を入れてほしい。また、桜川低地には昔、鬼怒川が流れていたという話など、謎解きを含んだ話を入れるべきである。

→もう少し勉強して、ジオサイトの再検討も行いたい。

[立山黒部地域] 事務局より JGN 正会員加盟申請の趣旨説明があった。

(委員) 1 点目は、対象地域が中部山岳国立公園の北半分と重なり、環境省との連絡・相談はどうされたのか、2 点目は、3 千メートル級の山岳地域でのジオツアーの可能性はどうか？

→1 点目は、立山の自然保護官事務所と相談してアドバイスをもらうとともに、研修への協力をお願いした。2 点目は、山岳登山はスキルが必要だが、立山の登山ガイドによるジオツアーも可能となっている。江戸時代から、山登りのガイドをした人々の子孫がおり、また大学時代から登山をやっている方々もおり、これらの方々にもジオガイド養成講座を受けていただいている。

(委員) 民間主導の協議会を行政がサポートする形のメリットとデメリットは？また、今後の見通しは？

→自治体はサポートではなく一体化しているのでデメリットはない。今後も一生懸命に取り組む覚悟である。

(委員) 富山県との関係は？また、広いエリアにおける観光客の誘導はどうするのか？

→県からの資金援助や、県立博物館からの情報発信、各エリアで県施設の拠点利用などの協力をいただいている。当初は立山エリアと黒部エリア中心だったものを、多くの方に恩恵が広がるということから、もっと広げてストーリーを考えた。

(委員) 必ずしも富山市を入れる必要はないのでは？

→富山市には平野があり活断層も分布しており、調査もされている。新しい時代を代表する地域として含めている。

(委員) 1 点目は、見る対象としての富山市をどう盛り上げていくのか方策は？2 点目は、ボトムアップの担い手は？3 点目は、同様な他のジオパークで何をどう学んだのか？4 点目は、立山黒部アルペンルートの活用は？

→1 点目は、富山を歩けば地球がわかるというキャッチフレーズで、生涯学習とのリンクを考えている。富山市内にも立山黒部とのつながりのある場所が多く、常に意識するようにしている。2 点目は、担い手は地域住民であり、その理解・発信が大事と考えている。3 点目は、来年 3 月に北陸新幹線が開通するので、沿線の糸魚川や白山ジオパークと連携・協力・発信していきたい。

(委員) 住民が自然の恵みをどう活かしているのかが大事。富山市内から始めて山に繋げていくなど楽しみ方や導入ストーリーを工夫してほしい。いきなり 4000m あがるのではな



く、レンタサイクルなど、少しずつわかるように進めて欲しい。

(委員) ものすごく欲張っているような感じがする。山岳地形の違いや謎などをもっと掘り下げてほしい。目に見えるものを出していくと良い。ブナ帯にスギの林ができていなど。日本列島の生い立ちは不要。総論的なので、もっとその地域の特徴ある「不思議」を入れて欲しい。

[総合討論]

(質問) ジオパークは今の社会にとってなぜ必要なのか？生態系や自然が失われつつある現状を理解し、その視点を含めて議論すべきである。大地の形成の話や人の営みはあるが、動植物や生態系、その保全の話が少ない。

(質問) ジオダイバーシティの話はバイオダイバーシティと関係が深い。気象もジオダイバーシティとの関連で捉えるべきである。環境アセスメントを行う際にも、両者の重要性が認識されつつある。行政が認識されてきたと感じている。

17:00 閉会

## 委員会審議

配布資料

資料1 第19回日本ジオパーク委員会議事録（案）

17:05 開会

事務局から新委員と継続委員及び顧問の紹介があり、委員の互選で尾池委員が委員長に、また中田委員が副委員長に就任することが了承された。

[新委員長挨拶]

[資料確認と事務局報告]

（事務局）議事録（案）については、これから意見をメールでいただいたうえでまとめた。2月にWGがあり、ユネスコの正式プログラム化の一つの案として、IGCPの下に入れることが考えられている。5～6月にもう一度WGを開くか検討中で、来年の総会での正式プログラム化を目指している。

[今年度の審査基準等について]

（委員）採点シートの上位概念として、「ジオパークを目指す地域は、持続可能な社会実現のために、ジオパークとしてその地域にあったやり方で、住民、行政、研究者などの関係者が、ともに考え続けているか、また、そのためにこれまでのやり方を変える覚悟がある。」という前文を提案。

アドバイザー制度については、全国をブロックに分けるブロック制の議論と連動させていきたい。現地審査員メンバーをもとに、JGNで講師リストを作成し、そこから派遣する。

協議会担当者が研修を受け、地域ブロック活動に参加した後、地域での実践を積んで全国大会での発表を行い、相談会に参加する。それらを経た後で申請に至るような仕組みを作るべきである。対象は準会員とし、助走期間を2年間とする。

審査結果報告書（宿題）については、JGCから各申請地域に送り、回答書の提出を求める。回答書は現地審査員どうしでシェアし、認識の違いを埋めるため、やり取りを行う。回答書は、原則、再審査の際に評価されるものとする。

今後は、JGCとJGNの関係を整理したほうがよい。

JGN全国大会では、現地審査員研修会（今後、活性化部会）が企画段階から連絡を取り合う。当大会の日本ジオパーク活動の中での位置づけを検討する。なお、今年度の全国大会は南アルプスジオパークで開催され、テーマは、「山岳と人とジオパーク」である。

（委員長）準会員の資格は？

（委員）申請すれば入れる。

（委員長）助走期間2年というのは目途であり、実際は学術顧問が相談して決める？

（??）学術顧問は止める権限があるが果たされていない。

（委員）申し合わせ事項で、JGCが指定する会合に参加することとされており、相談会に

出席することだけが決まっている。

(委員) 推進協議会が立ち上がっている必要はないのか？

(委員) その必要はない。

(委員長) 前文をしっかり付けるということとその内容を決めればよいのか？

(委員) 審査でもっとも重要視される点が明示されていないということについては？

(委員) 点数で示すのか、示さないのか・・・。

(委員) GGNに準拠しているというのを削除すべきか？

(委員) 点数に代わるものにするためには時間がかかる。

(委員) 事例集にして前文を加えるということか？

(委員長) ビューポイント（視点集）で審査の視点を入れたほうがよい。

(委員) もう少し修正したほうがよい。

(委員長) 審査基準は進化すべきものである。前文を付け、視点集を入れて、メールで議論することとする。

[現地審査へ進む地域の決定]

(委員) 現地審査をしないことも選択肢の一つ。

(委員) アポイにはまた行くのか？

(委員) 変わりましたというプレゼンがあったので行くべきである。

(委員) どこを見るのか？少なくとも申請書は前回と変わっていない。

(委員長) 1年間待ってもらってもよい。落とすために行くことはない。

(委員) 去年出した宿題に対しては、ほぼ対応されていた。

(委員) 対応は変わったと思う。申請者は変わっていないが、発表のパワーポイントは改善された。

(委員長) 他の地域についてはどうか。反対がなければ、全て行くことにしたい。→了承

[現地審査の分担]

(事務局) 現地審査員のリストを提示。もし意見があれば、後で出してほしい。

[第21回委員会日程の確認等]

(事務局) 次回は8月28日午後、東京で開催予定。

(委員) 5月29日にJGN総会を開き、前日にAAPG研修の予定。

17:55 閉会